



富山薬窓会首都圏支部

目 次

新支部長ごあいさつ	(89、H10年卒) 高瀬 明子	1
前支部長ごあいさつ	(60、S48年卒) 中西 憲幸	2
令和3年度支部総会報告	(77、H2年卒) 紺谷 徹	3
新役員挨拶		4
総会での話題提供①「2つの漢方ー現代医学としての漢方と伝統医学としての漢方」	(66、S54年卒) 新井 一郎	5
総会での話題提供②「核酸製剤の開発に携わって ～経口製剤化を目指した経腸全身デリバリー～」	(83、H8年卒) 渡辺 知恵	7
奥田学舎ー若き日の追憶ー	(42、S30年卒) 佐藤 哲男	8
リモート環境下での社会人生活	(107、R2年卒) 菊地 美里	11
ゴルフクラブ便り	(55、S43年卒) 石橋 嘉夫	12
令和2年度首都圏支部活動報告・新支部役員		12
令和2年度会計報告、令和3年度予算(案)		14
令和2年度 支部年会費納入者一覧		15
編集後記		18
令和3年度首都圏支部web総会写真		19



## 新支部長からのごあいさつと 皆様へのご支援・ご協力をお願い

富山薬窓会首都圏支部長（㊦、H10年卒） 高瀬 明子

首都圏支部の皆様、いかがお過ごしでしょうか。本年度の富山薬窓会首都圏支部総会（2021年6月26日、Web開催）にて支部長を拝命いたしました高瀬明子と申します。前支部長の中西憲幸さんには、11年間の長きにわたり強力なリーダーシップで首都圏支部の発展にご尽力いただき、感謝申し上げます。そんな中西さんを引き継いで大役を仰せつかることとなりまして、身が引き締まる思いでおります。至らぬ点多いかと思いますが、新体制の役員メンバーと力を合わせて精一杯務めさせていただきますので、ご指導ご鞭撻のほど、何卒宜しくお願い申し上げます。なお、私、旧姓が「高瀬」で現姓は「堀口」で同窓会名簿に掲載されておりますが、首都圏支部でも、仕事と同様、より覚えていただいている旧姓を名乗らせていただくことと致しますので、宜しくお願い致します。

2021年も後半を過ぎておりますが、首都圏では新型コロナウイルス感染拡大が続き、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の下の生活を余儀なくされ、そのような中で東京オリンピック・パラリンピックが開催されるなど、昨年を引き続き私たちがこれまでに経験したことのないことが沢山起きています。このような状況の中、初めてZoomによるWeb形式での首都圏支部総会にチャレンジし、多くの皆様のご参加・ご協力のおかげで無事に開催できましたことに、心より御礼申し上げます。ご参加できなかった方へも、今回お届けする「首都圏遠久朶」にて総会の様子をタイムリーにご報告できるよう、本年は発行時期を変更いたしました。話題提供のご講演内容、総会報告、承認いただいた支部長を始めとする役員交代と年会費値上げについてご一読いただき、ご協力いただけましたら幸いです。また、今回の発行に際して寄稿いただいた皆様、誠にありがとうございました。

さて、総会で道見幹事長からお話がありましたように、今回、新役員には新たなメンバーにも多く加わっていただき、人数が増え、年齢層も少し変化しました。せっかくですので、新たな視点での試みを色々取り入れたいと考え、検討を開始しております。その1つとして、今回、会費納入を銀行振込でも行っていただけるよう、口座情報とともにその旨をわかりやすく記載しました。振込用紙による振込みよりもインターネットバンキング経由の方が簡単だという方には、ぜひご利用いただければと思います。また、今後、総会だけでなく、Zoomで同世代が集まれるような機会の設定も検討予定です。

最後になりましたが、首都圏支部の活動のためには、会員の皆様のご協力が不可欠です。総会のご参加は難しいけれども毎年欠かさず会費納入にご協力をいただいている方々も数多くいらっしゃる、大変有り難く思っております。今後とも、会費納入にご協力いただくと共に、総会や「首都圏遠久朶」への寄稿など積極的にご参加いただき、ぜひ、一緒に首都圏支部の活動を盛り上げていただきますよう、ご支援・ご協力を宜しくお願い申し上げます。



## 支部長の10年間を振り返って

前支部長（60、S48年卒） 中西 憲 幸

私は2010年より2020年まで10年間にわたり、富山薬窓会首都圏支部の支部長を務めました。1950年生まれで、2010年に60歳で定年を迎え、前支部長の柿崎さんから定年後は頼むと言われていたもので、快くバトンを引き継ぎました。引き継ぐにあたり、副幹事長の道見さんには幹事長になっていただき、役員若返りと女性参画のため、前職の後輩の葛西さんに有無を言わず、副支部長を引き受けてもらいました。

若い二人のおかげで、支部総会に若者が多く参加するようになり、会が華やかになってきました。3月11日には東日本大震災が起こり、認定NPO法人ジャパンプラットホームに10万円寄附致しました。

2013年には道見さんのアイデアで、B5判モノクロの首都圏遠久朶をA4判カラーに変更し、表紙に雨晴海岸からみえる冬の立山連峰を取り入れ、イメージを刷新しました。2015年には北陸新幹線が開業し、首都圏と富山がずいぶん近くなりました。

2016年には前支部長の柿崎さんが急逝されました。2週間前には三金会で一緒に牛タンを食べたのが最後となりました。

平成が令和に変わり、2020年の首都圏遠久朶には、最後のご挨拶を述べさせていただき、支部長のバトンタッチについて、高瀬さんの内諾をとっていましたが、総会を開催することができず、もう1年続けることにしました。コロナ禍は1年で終息すると思い、今年度の総会で支部長交代と年会費の値上げを決議する予定でしたが、コロナ禍は終息せず、総会開催は困難となりました。そこで1月から隔週の金曜日の夜に、内諾を得ている新役員と旧役員のオンライン会議を開催し、Zoomによる総会に向けて準備を開始しました。

お陰様で初めてのオンライン総会でしたが、事前準備がよかったので、大きな問題はなく開催でき、支部長交代と年会費値上げを決議でき、一安心しているところです。

今後は三金会担当役員として、私から三金会を案内させていただきますが、まだ再開の目処は立っておりません。一日も早く皆さま方と牛タンに舌鼓を打つことを楽しみにしております。

長きにわたり本当に有難うございました。

# 令和3年度 「薬窓会首都圏支部総会」 報告

副幹事長：(㊦、H2年卒) 紺谷 徹

昨年度は長年続いた首都圏支部総会を、新型コロナウイルス感染の影響で中止をやむなくされました。以降、首都圏支部役員一同、総会の存続・再開・意義などを何度も回を重ねて議論した結果、今年度は、Zoomを用いたリモート形式での開催の運びとなりました。一昨年までの様な会場での和やかで楽しい雰囲気総会と懇親会を今後、早期再開を願いつつ、まずは今回無事にリモート総会が実施できたことをここにご報告させていただきます。

今年度の首都圏支部総会は、令和3年6月26日(土)14時より、Zoomを用いたリモート形式で開催されました。参集可能な支部役員はAP東京八重洲の会議場に集合し、総会事務局としてトラブルなどの対応に備えました。

30分前よりZoomでのバーチャル会場をオープンし、心配していたアクセストラブルなども無く、続々とリモート参加者数が増え、最終的な参加者は50名に達しました。

総会は平岡副支部長が総合司会を努め、今回をもって勇退される中西 憲幸支部長の挨拶で始まりました。来賓としてお招きした薬窓会の稲田裕彦会長からご挨拶を賜り、酒井秀紀学部長と松谷 裕二副学部長からは富山のローカル話題から大学の近況をお聞かせ頂きました。安居 輝人近畿支部長からは近畿支部の現況と薬学環境の変化をお話しいただきました。

道見幹事長からは、議事として2020年度の活動および会計報告、2021年度の予算案説明があり、加えて首都圏支部年会費値上げ(2,000円)の提案がありましたが、参加者全

員の賛成をもって承認されました。また、2021年度役員改選として、高瀬 明子新支部長が参加者全員の賛成をもって選任されました。高瀬新支部長は就任挨拶として、中西前支部長の重責をしっかりと引き継いで首都圏支部を発展させていく決意を述べられました。また、今回新たに幹事として加わる新役員(畠山 伸二さん、宅間 祐太郎さん、齋藤 みのりさん、膝附 由香さん、木村 徹さん、宅和 知文さん、川邊 香代さん、丸茂 勇輝さん)も紹介されました。

今年度の話題提供は、渡辺 知恵さん(83回生)から「核酸製剤の開発に携わって～経口製剤化を目指した経腸全身デリバリー～」、新井 一郎さん(66回生)から「2つの漢方ー現代医学としての漢方と伝統医学としての漢方ー」について講演頂きました。

渡辺さんは大学の研究室に勤務され、次世代型医薬品として開発と上市が相次いでいる核酸医薬のDDSを中心とした経口製剤化プロジェクトに携わっておられます。講演では大学時代から留学を経て現在に至るまでの、多くの友人と恩師との出会いを通じたエピソードを中心に紹介いただきました。特に、アメリカ留学でキャリアを積まれた免疫学の研究から、帰国後に薬剤学の研究に魅了されたお話は感慨深く聞かせて頂きました。

新井さんは研究室配属時に漢方のテーマを与えられて以来、企業在籍時から大学で教鞭をとられる現在に至るまで、漢方薬の世界で生きておられます。講演では、俗に言われる東洋医学(漢方医学)には古来の「伝統医学としての漢方」と新しい「現代医学としての漢方」があるが、患者が「伝統医学としての漢方」を求めるのは、現代医療に対する不満の裏返しと説かれました。また、東アジア諸国で、日本だけが「伝統医学としての漢方」が特異的に発展した理由についても非常に興味深く聞かせて頂きました。

通常総会の懇親会に代わる企画として、せめてものコミュニケーションの場と作ろうとブレイクアウト・セッション（Zoom機能での小グループに分けた懇談会）を企画していましたが、時間の都合上、開催できませんでした。次回総会時、機会がありましたら、是非、再挑戦したいと思います。

さて、令和4年度の総会は6月25日（土）14：00～を予定しています。開催方式は未定ですが、コロナ禍が緩和されることを期待して、会場とリモートのハイブリッド型総会の実施を計画予定ですが、詳細が決まりましたら改めてお知らせしますので、ご期待ください。

来年度の総会で皆様と元気にお会いできることを事務局一同、楽しみにしております！

### 新役員挨拶

（⑩、H元年卒） 畠山 伸二  
新役員を担当させていただきます、76期の畠山伸二です。今回、役員構成が大きく変わりましたが、今まで通り、先輩方々のご指導を頂きながら、後輩の皆さんや同期共々、楽しく親睦を深められる薬窓会を目指したいと思います。よろしくお願いします。

（⑪、H2年卒） 齋藤 みのり  
77回卒の齋藤（旧姓 花山）みのりです。新会長をサポートし、会を下支えして参ります。

私事では転職を経験し、目が回る日々です。医薬品という古来から変わらぬ、人類に重要なものを取り扱う世界にありますが、そこに存在するプレイヤーは多様になっていると感じています。そんな世界を会員の皆様とも共有していければと思います。どうぞ宜しくお願いします。

（⑫、H9年卒） 木村 徹  
今年度より幹事となりました84回卒の木村徹です。よろしくお願いします！博士後期課程まで竹口紀晃先生の薬物生理学研究室（現酒井秀紀教授）にお世話になりました。薬窓会のメンバーは薬剤師や企業の方が多いと思いますが、私は少数派の大学教員です。杏林大学医学部薬理学教室で、癌や多発性嚢胞腎、高尿酸血症など疾患に関わるトランスポーターの研究を行っています。今年度の役員と一緒に、今後も薬窓会を盛り上げて行きたいと思います！

（⑬、H9年卒） 宅和 知文  
第84回卒生の宅和知文と申します。本年度より新役員の一員として加わらせて頂く事になりました。宜しく願い申し上げます。オリンピックの連日の金メダル奪取に沸く一方で、コロナ患者が1万人を超えたというニュースに複雑な心境の今日この頃です。

さて、早いもので首都圏支部に参加させて頂く様になって20年近くが経ちました。頻繁には参加できておらず、いつも顔を出す度にご無沙汰しています！と言っている私ですが、この集まりで私が常に感じるのは、「久しぶり」とか、「世代の違い」、「会社や職種の違い」とかを超えて皆さんが暖かく迎えて下さる居心地よさです。楽しいばかりのお話をする事もあれば、ホットな時事ネタ、裏話を教えて頂く事もあり、飽きる事はありません。これまではその恩恵を頂くばかりでしたが、今後は役員側として微力ながら本会の発展に協力させて頂く所存です。まだまだ若輩ではございますが、今後とも宜しくお願い致します。

（⑭、H9年卒） 膝附 由香  
第84回卒生の膝附（ひざつき）由香と申します。本年度より新役員を仰せつかりました。

少し前までは若手と言われた年代でしたが、20歳以上若い年代も入ってきて中堅どころになりました。参加率が高い代と低い代がありますが、幅広い代の方々に参加していただけるように、会の活性化につながる活動をしていければと思っております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

(㉟、H10年卒) 川邊(大島)香代  
第85回卒生の川邊香代と申します。本年度より役員を務めさせていただくことになりました。この度、同期の高瀬さんが支部長に就任されましたので、同期の仲間として微力ながら首都圏支部のために尽力させていただく所存です。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、今回はWeb開催に踏み切りましたが、幅広い代の方にご参加いただきましたことを大変嬉しく思っております。今後も新たな形式や発想を取り入れながら薬総会を盛り上げていければと思いますので、引き続きよろしくお願いいたします。

(㊱、H22年卒) 宅間 祐太郎  
97回卒生の宅間祐太郎と申します。今年より新役員として加わらせていただくとともに、副幹事長という大役も任されることになり、身の引き締まる思いです。

卒後5、6年目で上司に連れられて総会に参加して以来、首都圏支部の皆様のお世話になっております。薬窓会のつながりは年代を超えた交流をさせていただける大変貴重な機会であり、これまで多くの刺激をいただいて参りました。今後は役員としてどれだけ貢献していけるかはわかりませんが、精一杯盛り上げられるように頑張っていきたいと思っております。今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

(㊲、H30年卒) 丸 茂 勇 輝  
第105回卒生の丸茂勇輝と申します。新役員としてご挨拶させていただきます。

COVID-19の流行により従来の方式による活動が制限される中ではございますが「この伝統ある総会を何とか開催したい」という思いから、準備をして参りました。今回、初めての試みとして、Web形式により開催できたことを嬉しく思っております。画面越しではございますが、集合写真を撮る際には、参加者みなさまとの一体感を感じることができました(技術の進歩に感謝)。

私は首都圏支部会を通して、幅広い世代の方々とのつながりを感じてもらいたいと思っております。私自身、上京したときには知り合いがほとんどおらず、その様な時に医薬大の先輩方と牛タンを食べながらローカルトークをできたことで、非常に安心したことを覚えています。平成31年度の首都圏遠久朵において「新社会人」として寄稿したばかりの若輩者ではございますが、世代問わず人と人とのつながりを感じられる集まりが、これからも在り続けるよう尽力させていただきます。

---

#### 話題提供①

## 2つの漢方 ー現代医学としての漢方と 伝統医学としての漢方ー

(㊳、S54年卒) 新 井 一 郎

漢方は、江戸末期まで我が国の医療の中心でした。明治になると、「脱亜入欧」の流れの中で、日本の医術開業試験は西洋医学だけで行われるようになり、漢方はいったん我が国の医学の表舞台から消えました。ただ、生薬や生薬配合薬は、和漢薬として薬種商の中に残り、その一部は今日まで伝わっています。

明治末期に、和田啓十郎により漢方が再発見されてからは、一部の医師の努力で漢方が復興し、戦後の日本東洋医学会の設立につながります。これには、清水藤太郎など薬剤師の寄与もありましたが、日本の東洋医学近代史はほとんど医師が書いていますので、あまり顧みられないことは残念なことです。復興した漢方は、西洋医学を学んだ医師・薬剤師が漢方の考え方、診断方法に基づき煎じ薬を処方するというものでした。日本の漢方は、江戸時代に吉益東洞が陰陽五行論を廃したため、気血水や六病位といったわずかの理論を用い、症状から直接使用する処方を導き出す「方証相對」の考え方になり、中国医学の考え方とは大きく乖離しました。これが、「伝統医学としての漢方」です。ただ、今日、一般の方がイメージする漢方は、マスコミの誤解もあり、この「伝統医学としての漢方」と、「中医学」と呼ばれる今日の中国医学がミックスされたものになっています。

1960年代、我が国で漢方エキス製剤が開発され、保険収載もされましたが、大きなマーケットにはなりません。なぜならば、このエキス製剤は、煎じ薬の代用品として日本にわずかしかな存在しない漢方医や漢方薬局をターゲットにして販売されたからです。煎じ薬信仰の強い漢方専門家にはエキス製剤は受け入れられるものではありませんでした。

状況が大きく変わったのは、1976年に、ツムラの医療用漢方エキス製剤33処方などが薬価収載されてからです。ツムラは、漢方エキス製剤を、漢方を知らない医者もターゲットにして販路を拡大しました。このことは、当時の医師会会長の武見太郎の考えた理想とする医療を生み出しましたが、それをさらに超えて、もう一つの漢方、すなわち、「現代医学としての漢方」を生み出すことになりました。昔は考えもつかなかった、外科手術と漢方薬の併用、抗がん剤の副作用に漢方薬を用いる

といった我が国だけの使い方を生み出しました。現在、漢方の大部分は、この「現代医学としての漢方」になっていますが、これを生み出したのは、漢方の専門家ではなく、ツムラと漢方を知らない医師たちです。このことは、あまり語られていません。これには、漢方的診断ではなく、西洋医学的エビデンスが重視されたのは当然のことです。

今日、「伝統医学としての漢方」は、漢方クリニックや漢方薬局で、「現代医学としての漢方」は、病院や一般クリニックを中心に行われています。この2つの漢方はどのように使い分けるべきでしょうか。忘れがちなのは、1976年以降に漢方エキス製剤を服用した日本人の数、そこから得られた有効性、安全性のデータは、1976年までの数千年の漢方の歴史から得られた煎じ薬のデータよりも質・量とも圧倒的に多いということです。したがって、今日、漢方薬を用いる場合は、まず、漢方エキス製剤を、現代医学的エビデンスに基づいて用いるべきと考えます。つまり、「現代医学としての漢方」です。しかし、「現代医学としての漢方」はまだ発展途中で、これですべての問題が解決できるわけではありません。その時には、患者の希望があれば、個別治療として「伝統医学としての漢方」を行えばよいと思います。

日本の漢方は、近年、大きく変貌しました。これからも現代医学の進歩に伴い大きく変貌していくはずですが、将来、漢方が必要でなくなる時が来るとしたら、それは、ほとんどすべての病気の治療法が確立したことを意味し、日本人にとって幸福な時かもしれません。

## 核酸製剤の開発に携わって ～経口製剤化を目指した 経腸全身デリバリー～

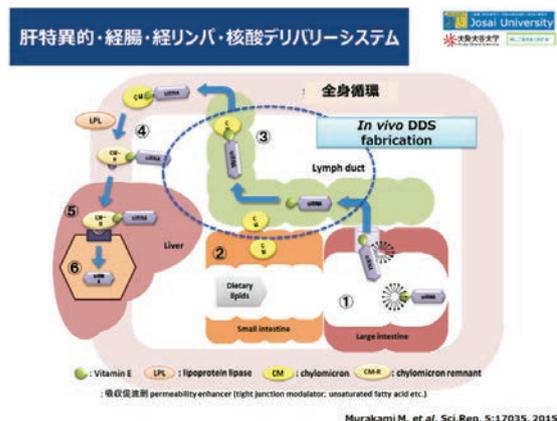
(㊟、H8年卒) 渡辺 知恵

2019年末より始まったパンデミックは私達の生活に深く影響を及ぼしており、大学においては講義だけでなく、あらゆる課外活動も制限を受けており、学生達にとって大変厳しい時期が続いております。その対応に奔走し、戻ることのない時代の大きな変化を感じるにつけ、富山で送らせて頂いた大学生活・研究生生活がいかにか自由で充実していたか、そしてそれが現在の原動力となり、様々な場面において精神的支えとなっていることを痛感し、母校の諸先生方、諸先輩方、同級生、同窓生へ心より感謝しております。

SARS-CoV-2によるパンデミックへの対抗策として、世界各国でワクチン開発が急速に進んでおりますが、中でもファイザーやモデルナ社製mRNAワクチンが日本でも使用されることから、核酸ワクチンが注目を集めるようになりました。核酸ワクチンと類似した構造をもつ核酸医薬は、遺伝子疾患、難治性疾患、また従来の治療薬では制御困難な難治症例の患者を対象とし、抗体医薬につぐ次世代型バイオ医薬品として、近年著しく開発が進んできております。現時点において承認された核酸医薬品は未だ数少ないですが、臨床試験に入っている核酸医薬の数は急増しており、その標的分子、対象疾患も多岐に渡ってきています。核酸医薬は天然型もしくは化学修飾型ヌクレオチドを基本骨格とする薬物であり、その全身性デリバリーを達成するには、体内安定性、組織移行性、細胞内導入効率、標的遺伝子特異性、エンドソーム脱出効率、有効性と克服すべき障害は多く、細胞毒性、免疫

原性、オフターゲット効果などに関する安全性の担保も必須であることから、核酸医薬におけるDDSは核酸医薬開発における重要な鍵となっています。

2009年より大阪大谷大学・薬・村上正裕教授の下で、核酸医薬の経口製剤化を目指したDDS開発に携わって参りました。本システムでは、ヌクレアーゼ耐性獲得のため化学修飾を施し、DDSのため脂溶性ビタミンE (Tocopherol) を結合させたsiRNA (Toc-siRNA) を平均粒径約15nmの脂質ナノ粒子 (Lipid nanoparticles, LNP) に包含させたもの (Toc-siRNA/LNP) を用いました。Toc-siRNA/LNPは腸管投与後、リンパ指向性により、腸管吸収を経てリンパ管に移行します。リンパ管内では、Toc-siRNAは小腸から分泌されたカイロミクロン (CM) と会合し、CMを内在性キャリアーとして全身循環にのります (*In vivo* DDS fabrication, 下図)。その後、CM-レムナント受容体を介してToc-siRNAは肝細胞特異的に取り込まれ、標的遺伝子 *ApoB* の発現抑制を介して、LDL-コレステロールやトリグリセリドの血清中レベルを低下させることが出来ました (Murakami M., *et al.* Sci. Rep., 5:17035, 2015)。次に、共同研究者の東京医科歯科大学・医・横田徳隆教授により開発された各段に高い遺伝子抑制効率を示すToc-HDO (ヘテロ二本鎖核酸) を改良型本DDSを用いて検討した所、前述同様の薬効が認め



られ、さらに、高コレステロール血症モデル動物においても薬効が認められました。現在、さらにDDSの改良を進め、最終目標の経口投与による経腸経リンパDDSの仕上げを進行させております。また、本DDSの他の疾患・標的遺伝子への応用に挑戦しており、高効率かつ安全な核酸製剤の開発を介して社会に貢献していきたいと考えております。富山薬窓会首都圏支部のさらなる御発展と諸先生方の安全と健康を祈念しております。今後ともご指導ご鞭撻を頂けますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

## 奥田学舎 —若き日の追憶—

(㊤、S30年卒) 佐藤哲男

### はじめに

富山大学を卒業して70年近くになり最近無性に昔のことが懐かしく感じる日が増えました。初めて親元を離れて4年間住んだ富山の思い出は尽きることがありません。薬窓会首都圏支部総会には千葉に住むようになった昭和40年頃はときどき出席して多くの先輩や後輩、同級生などと語り合う機会がありました。その後、私事や公務で出席することができず、最後に出席したのは恐らく20年くらい前だったと記憶しています。最近、高齢になったことを実感する日々が多くなりましたので、昔の記憶を失う前に大学時代の思い出について拙文を寄稿させて頂くこととしました。

### 忘れがたい寮生活

私が昭和26年4月に富山大学薬学部に入學したとき、校舎は富山市奥田にありました。当時薬学部の遠久朶（おくだ）寮が岩瀬浜にあり、60人ほどの学生（男子のみ）が寝食を共にしていました。資料によると、この寮は昭和23年に岩瀬にあった保土ヶ谷化学（株）

の寮（235坪）（約775.5m<sup>2</sup>）を薬学部が購入したものだそうです。木造二階建ての建物でした（写真参照）。寮は街道から少し入った海岸に近いところに建てられており、夜中の静かな時などには波の音が聞えました。寮生は全国から集まっており、その中には、後年母校の教授になった吉井英一さん（第40回卒業）、百瀬雄章さん（第42回卒業）もいました。吉井さんは富山大学を卒業後、京都大学大学院へ、百瀬さんは大阪大学大学院へ進学されて素晴らしい教育者、研究者として母校に戻り後輩の育成に専念されました。しかし、残念ながら両英才はその後若くしてご逝去されました。

寮生は毎朝富山港線の終点の岩瀬浜駅で乗車し富山口駅（平成18年、2006年に廃止）で下車し奥田の校舎まで10分ほど歩きました。寮から岩瀬浜駅までの並木街道の途中に小さい雑貨屋があり、寮生は往復そこで駄菓子や飲み物を買ったのも懐かしい思い出です。この遠久朶寮は薬学部が奥田から五福キャンパスに移転するまで続きました。



▲旧富山大学薬学部遠久朶寮 1945(昭和20)年代後半(現・富山市岩瀬町)

写真：富大遠久朶寮

### 奥田校舎の歴史

資料によると、富山大学薬学部の前身の県立富山薬学専門学校は明治43年（1910年）に開学しました。当時は富山市総曲輪にあった

そうです。大正9年(1920年)12月に官立(国立)に移管されて、大正10年4月に校舎が富山市奥田に建てられました。その後、昭和39年(1964)に富山大学の統合計画により五福キャンパスに移転するまでの44年間、奥田校舎では薬学教育、研究に関して全国的に特色ある有名校として実績を保ち続けました。その間、校舎は昭和20年8月に大東亜戦争(第二次世界大戦)で爆撃され焼失しましたが、間もなく戦災の跡地に木造2階建ての事務棟や平屋の講義室、研究室、実習室などが新築されました。



写真：奥田校舎

昭和24年(1949)、国の学制改革により新制富山大学が創設され薬学部もその一学部となりました。現在、奥田の薬学部跡は奥田寿町公園になっています。

#### 素晴らしい教授陣

薬学部に入學したら初日から薬に関する講義を受けられるものと楽しみにしていました。しかし、当時の国立大学は入學したら原則として最初の2年間は一般教養課程を受講することになっていました。富山大学薬学部の場合は2年ではなく最初の1年6ヶ月でした。薬学部の新入生は富山港線の蓮町駅で下車して駅前にあった富山大学文理学部で哲学、英語、ドイツ語、倫理学ほか多くの一般

教養科目を受講しました。その後、2年生の後半になってようやく待望の奥田の薬学部校舎に通学することとなりました。

当時の薬学部の教授陣には全国的に有名な先生が多くご在職されていました。薬品製造学の教授だった横田嘉右衛門先生は1949年に初代学部長となり、1961年には第4代富山大学学長にご就任されました。薬学出身者で国立大学学長に就任された全国で最初の例です。先生は教育、研究については非常に厳しかったですが、学生の悩みなど親身になって相談に乗って下さいました。また、横田先生は東京帝国大学医学部薬学科時代の同級生であった東京大学薬学部の菅沢重彦教授(薬品製造化学)や落合英二教授(薬化学講座)を招聘して特別講義を開講して下さいました。

薬化学の三橋監物教授は講義の時は決して冗談など言うことなく謹厳実直な先生だったと記憶しています。余談ですが、三橋先生のご実家は、千葉の成田山新勝寺の参道に340年有余の江戸時代からある三橋薬局です。今でも家伝薬「はらのくすり成田山一粒丸」の看板を掲げています。生薬学の中沖太七郎教授(中沖豊 元富山県知事のご尊父)の講義は薬用植物、漢方薬についてまさに薬の真髄を聞く思いでした。中沖先生は小柄で仙人のような風貌でした。山崎高應先生は当時薬品製造学の助教授だったと記憶しています。講義では薬品製造学と統計学を担当されて、富山弁丸出しの早口で熱弁を振るわれたことが印象に残っています。その後、山崎先生は教授、学部長、富山医科薬科大学副学長になられた後、昭和63年4月には同大学第3代学長にご就任されました。その他多くの教授、助教授の先生方にお世話になりましたが、紙面の都合で割愛させていただきます。また、私どもが学生時代にお世話になった各研究室の助教授、助手の先生方の多くは後年、富山大学や富山医科薬科大学の教授としてご活躍されまし

た。

### 特別研究の思い出

当時、4年生になったら全員が1年間各研究室に分かれて特別研究（後に卒論研究に呼称が変更）を行うこととなっており、私ども6名は「薬物学研究室」に配属されました。同研究室はその前年に東大薬学部から移られた北川晴雄先生が新設されたもので、我々が第1回の卒論生でした。富山大学薬学部では北川先生が赴任されるまでは「薬物学（薬理学）」の研究室はありませんでした。

先生は、昭和39年に富山大学から千葉大学薬学部の教授として転出されて、「薬物学研究室」を主宰されました。私事で恐縮ですが、学生時代の私は薬剤師の本業は医療現場で薬を取り扱うのが仕事である信じていましたので、昭和30年3月に富山大学を卒業後、国家試験に合格して薬剤師になった時に地元の秋田赤十字病院薬剤部に勤務しました。4年も経った頃突然卒論時代の研究生生活が懐かしくなり、病院を退職して北川先生のご助言で北海道大学大学院薬学研究科に入学しました。大学院では修士、博士過程5年間在学し、昭和41年3月に修了しました。同年4月には、北川先生のご紹介で千葉大学の附属研究所に文部教官、助手として就職しました。昭和50年4月からは北川先生の助教授として薬学部薬物学研究室に勤務しました。その後、昭和59年4月には東京薬科大学の薬理学担当教授として転出しました。

昭和63年のある日、千葉大学の薬物学研究室のスタッフから北川先生が急逝されたとの電話連絡を受けました。全く突然の話だったので絶句しました。北川先生は私にとってはかけがいのない恩人でした。北川先生のご逝去に伴って、千葉大学薬学部教授会では後任の選考を行った結果、私が後任としてご推挙頂きました。昭和63年4月には千葉大学に戻り、一年間東京薬科大学との兼務が続きまし

た。その後8年間勤務し平成8年3月に定年退職しました。その後は千葉大学名誉教授として大学の行事に関わりました。

### 忘れがたい級友

現在、首都圏には8名の同級生がご存命で、その中の5名が昔岩瀬浜の寮で寝食を共にした親友です。以前は首都圏近郊に住んでいる同級生が毎年集まって旧交を温めていました。しかし、高齢になり体の不調なども加わったことから数年前に中止することとしました。昭和30年の卒業時には77名（内女子9名）だった同級生のうち、私が知っている限りでは31名（内女子6名）がすでに他界されました。卒寿を迎えて残り少ない余生となりましたが、ときどき同級生の訃報を聞くとたまらなく寂しさを感じます。

### おわりに

昔の富山大学薬学部は1975年（昭和50年）に富山医科薬科大学薬学部となり、さらに2005年（平成17年）には富山大学、富山医科薬科大学及び高岡短期大学を再編・統合し、昔の名前である富山大学薬学部となりました。かつて青春のひと時を過ごした奥田の地は、そこで学んだ卒業生にとって懐かしい限りです。奥田で学んだ多くの同窓生は高齢になり現役を退かれておりますが、皆様にとってこの小文が昔を思い出すきっかけになれば本望です。また、奥田校舎をご存じない卒業生の皆様にとっては薬学部の歴史を知る上で少しでもお役に立てば幸いです。最後に、100年余の歴史を持つ富山大学薬学部が今後も連綿と輝き続けることを祈念して筆を擱きます。

**謝辞：**今回本稿に掲載した写真は、在京同級生の種谷 豊さんからご恵与頂いたものです。改めて御礼申し上げます。また、今回寄稿を快くご承諾下さいました道見幹事長に深謝いたします。

**資料：**富山医科薬科大学薬学部百周年記念史

## 追記

2014年に友人、知人、教え子の勧めで一般人向けの健康、薬に関するブログ「メディカルトーク」を立ち上げました。パソコンやスマホをご使用の方はURL：<https://redrb.heteml.net/satohtetsuo/index4.html#satoh>をご笑覧いただければ幸いです。毎月一回アップしていますので、ご意見、ご希望がありましたら〈tetsuo.satoh@jcom.zaq.ne.jp〉宛にお知らせ下さい。

## リモート環境下での 社会人生活

(㊦、R2年卒) 菊地 美里

この度は本誌への寄稿の機会をいただき誠にありがとうございます。第107回卒生の菊地美里と申します。学生時代は、製剤設計学講座にて大貫義則教授の下で、混合エマルジョンの物理的安定性評価を行っておりました。卒業後は都内の外資系CROにて臨床開発モニター(CRA)として新薬の開発業務に携わっております。大学5年生の時体験した病院での実務実習にて新薬の可能性に魅了され、最先端の医療に携わりたいという好奇心を軸に進路を決めました。

私が社会人となった2020年4月はCovid-19の影響による1回目の緊急事態宣言が発令された時期でした。そのため仕事で使用するPCは郵送で会社から自宅に送付、入社式は動画配信、対面で行っていた1か月の導入研修は全てWeb、初めてオフィスに出勤したのは6月初めという異例な社会人生活の始まりでした。今でも出勤頻度は2週間に1回ほどです。そんなリモート環境下での社会人生活について、今回お話させていただければと存じます。

苦労したことは、やはり社内でのコミュニケーションです。対面での顔合わせや会議は

もちろんなく、加えて弊社はフリーアドレス制のため席に座っている人が誰なのか特定できません。顔は分からないのにメールやチャット、音声通話だけで仕事が進んでいく事態には未だに違和感を覚えます。何か質問や依頼をするとしても、対面でお話したことのあつた人の方がしやういと感ずみますので、対面での交流の機会を増やすため工夫し続けた1年間でした。具体的には、先輩の出勤予定を調べ出勤が被つた日には席の番号を聞いたり、社内で電話しているとき名乗っているのを聞いたりして、お名前と顔を一致させその先輩に挨拶をしに行っていました。リモート下でお世話になつた先輩には特に、このように改めて対面でお礼を伝える機会を設けることで、コミュニケーションを深めることができましたと思います。コミュニケーションは業務のパフォーマンスを上げるためにはもちろん必要ですが、純粋に仕事の楽しさにも繋がることを体感しました。

また、通勤時間が無くなつたことによりプライベートの時間が増えました。何も考えずに過ごすように無駄に時間が過ぎてしまう感ずに、たまに大きなストレスを感じます。しかし、通勤があつたとしたら日々の忙しさと体力的疲弊によって感ずる余裕もなかつた感ずかと思うので、まずは気付けたことに感謝し、新しい趣味や勉強など有意義な時間にしていけるようこれからも思考していきたいと思ひます。

社会人生活1年間で成長できた点は、リモート環境下だつたからこそ痛感し体得できたことが多かつたと思ひます。これからもピンチをチャンスに、何事も前向きに捉え有意義な時間を過ごしていけるよう努めて参りたいと思ひます。最後になりますが、皆様と直接総会にてお会いできる日を心待ちにしております。どうぞ皆様、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。

## ゴルフクラブ便り

令和2年度薬窓会ゴルフ同好会の活動報告をさせていただきます。

本年は地球の気候変動が大きく、台風の被害も各地で爪痕を残した。また、高温や風雨が続き、ゴルフ場は多くの被害を受けた。一方で新型コロナウイルスの蔓延は世界中に広がり、東京オリンピックやパラリンピックの延期が決定されたり、緊急事態宣言も出された。そんな中、当初予定していた5月13日の春の例会は中止せざるを得ませんでした。長年続いた当会の歴史の中、中止の決定をしたのは初めてのこととなった。秋の例会を10月14日に開催を変更して会員に連絡した。9月に入り皆さんに出欠連絡したが、ウイルス感染がまだまだ続いており、事務局としてゴルフ場へ開催確認を数回にわたり実施した。その結果開催しようとの結論を出し、案内状を9月17日に送付した。

第96回秋の大会は、予定通り10月14日紫カントリークラブあやめコース東からスタートした。このコースは翌日から開催された日本オープンゴルフ選手権の紫カントリークラブすみれコースとは隣り合わせの姉妹コースでフラットの林間コースでした。当日10月とは思われない素晴らしい天候のもと、8名の参加で無事開催することができた。ただゴルフ場も完全に密にならないようにしていたためか、楽しいはずの会話も半減していたのは残念でした。優勝は幹事の58回卒の石井誠司さんでした。連続優勝を目指した56回卒の金知出さんは3位にあまんじた。最高齢44回卒の高木良造さんは23年前のバイパス手術に今回ステントを装着しての参加は敬服に値した。80回台の例会には毎回5～6組が集まり賑やかに一日を過ごしたのが、大層懐かしく思い出されます。その様な日がまた訪れる日を願って5月の次回開催を約束して解散し

た。

(㊦、S43年卒 石橋 嘉夫)



## 令和2年度 首都圏支部活動報告

### 1. 定期総会

2020年度首都圏支部定期総会は、6月22日(土)AP東京八重洲通にて、開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大により中止いたしました。

### 2. 2019・2020年度薬窓会本部総会・卒業謝恩会、2020年度薬窓会近畿支部総会、薬多津三金会(毎月第三金曜日開催)、五福会ともに新型コロナウイルス感染拡大により中止となりました。

### 3. 幹事会

2021年1月より2週間おきにZoomにて開催。

## 総会参加者・年会費納入者推移

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
総会参加者	69名	61	72	70	75	—
年会費納入者	292名	300	287	283	286	259

## 令和2年度 首都圏支部役員

支部長 : ⑥⑩、S48年卒 中西 憲幸  
副支部長 : ⑤⑧、S46年卒 加藤 健二  
⑧③、H8年卒 平岡 良隆  
幹事長 : ⑥⑥、S54年卒 道見 茂樹  
副幹事長 : ⑦③、S61年卒 阿部 浩之  
⑦⑦、H2年卒 紺谷 徹  
監 事 : ⑤⑨、S47年卒 松本 茂外志

## 令和3年度 首都圏支部役員

支部長 : ⑧⑤、H10年卒 高瀬 明子  
副支部長 : ⑦③、S61年卒 阿部 浩之  
⑧③、H8年卒 平岡 良隆  
幹事長 : ⑥⑥、S54年卒 道見 茂樹  
副幹事長 : ⑦⑦、H2年卒 紺谷 徹  
⑦⑥、H元年卒 畠山 伸二  
⑨⑦、H22年卒 宅間 祐太郎  
幹 事 : ⑥⑩、S48年卒 中西 憲幸  
⑤⑧、S46年卒 加藤 健二  
⑦⑦、H2年卒 齋藤 みのり  
⑧④、H9年卒 膝附 由香  
⑧④、H9年卒 木村 徹  
⑧④、H9年卒 宅和 知文  
⑧⑤、H10年卒 川邊 香代  
⑩⑤、H30年卒 丸茂 勇輝  
監 事 : ⑤⑨、S47年卒 松本 茂外志

## 令和2年度会計報告

(令和2年4月1日～令和3年3月31日)

I. 収入の部			単位 円
項 目	予 算	実 績	
前年度繰越金(普通預金)	3,256,227	3,256,227	
年会費	400,000	304,877	
総会参加費	500,000	0	
普通預金利息	30	25	
合 計	4,156,257	3,561,129	

II. 支出の部			単位 円
項 目	予 算	実 績	
総会費	450,000	34,860	
会合費(幹事会等)	50,000	0	
事務通信費	100,000	55,847	
同好会補助費	40,000	40,000	
会報発行費	360,000	388,137	
出張費	60,000	0	
事務局費	100,000	66,600	
次年度繰越金(普通預金)	2,996,257	2,975,685	
合 計	4,156,257	3,561,129	

## 令和3年度予算(案)

(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

収入の部		支出の部	
項 目	収 入	項 目	金 額
前年度繰越金(普通預金)	2,975,685	総会費	50,000
年会費	600,000	会合費	10,000
総会参加費	0	事務通信費	40,000
普通預金利息	25	同好会補助費	40,000
		会報発行費	400,000
		出張費	0
		事務局費	70,000
		次年度繰越金(普通預金)	2,965,710
合 計	3,575,710		3,575,710

## 令和2年度 支部年会費納入者一覧 (合計 259名)

※令和2年4月から令和3年3月末  
までに年会費を納入された方の一  
覧です。

回	年卒	氏名	回	年卒	氏名	回	年卒	氏名
34	昭和21	織井文貞	47	昭和35	梅原 弘	50	昭和38	定塚紀志子
37	昭和24	山口輝夫	47	昭和35	上村恵子	50	昭和38	高野祐子
37	昭和24	大和宗雄	47	昭和35	京泉清男	50	昭和38	福田昌平
39	昭和26	米丸洋子	47	昭和35	小国益男	50	昭和38	前田一郎
40	昭和28	眞舩恒雄	47	昭和35	須藤昌二	50	昭和38	宮澤英雄
41	昭和29	志甫 正	47	昭和35	野田久正	51	昭和39	加賀美壯一
41	昭和29	上銘外喜夫	47	昭和35	古川貞子	51	昭和39	島田庄蔵
42	昭和30	荒川泰藏	47	昭和35	室生知子	51	昭和39	島田輝子
42	昭和30	佐藤哲男	47	昭和35	安川正巳	51	昭和39	諏訪庸夫
42	昭和30	種谷 豊	47	昭和35	安川椒子	51	昭和39	塚越由美
43	昭和31	上野謙爾	47	昭和35	橘 眞郎	51	昭和39	那須邦久
43	昭和31	落合信雄	48	昭和36	安宅久弥	51	昭和39	古市泰宏
43	昭和31	久郷正孝	48	昭和36	油木劭之	51	昭和39	古市郁子
43	昭和31	車田知之	48	昭和36	川上 惇	52	昭和40	小野澤カツ子
43	昭和31	古徳 治	48	昭和36	川上芳子	52	昭和40	是枝 潤
43	昭和31	作田 充	48	昭和36	久保一夫	52	昭和40	坂本由美子
43	昭和31	本多 存	48	昭和36	熊木健治	52	昭和40	廣瀬南海子
44	昭和32	大村恭子	48	昭和36	定留温子	52	昭和40	星野洋子
44	昭和32	岡西澄子	48	昭和36	樋口明彦	53	昭和41	安西慶子
44	昭和32	紙谷得子	48	昭和36	船場定信	53	昭和41	岩崎孝一
44	昭和32	車田千秋	48	昭和36	前田伸子	53	昭和41	浦野四郎
44	昭和32	鈴木芳子	48	昭和36	村杉和子	53	昭和41	金子信子
44	昭和32	高木良造	48	昭和36	吉田誠一郎	53	昭和41	木村信子
44	昭和32	高瀬清孝	49	昭和37	小川信吾	53	昭和41	坂本理英子
45	昭和33	大郷利治	49	昭和37	鈴木国男	53	昭和41	中村和子
45	昭和33	児玉英篤	49	昭和37	長谷川信治	53	昭和41	林 聰
45	昭和33	竹村康子	49	昭和37	長谷川達子	53	昭和41	曲淵徹雄
45	昭和33	橋浦十八	49	昭和37	林 幸子	53	昭和41	南 法夫
45	昭和33	水野一彦	49	昭和37	廣江光代	53	昭和41	村上則彦
46	昭和34	青木直右衛門	49	昭和37	古谷 孝	54	昭和42	小木曾周子
46	昭和34	尾嶋司郎	49	昭和37	三尾美和子	54	昭和42	庄司孝市
46	昭和34	川畑耕祐	49	昭和37	見義治子	54	昭和42	庄司幸子
46	昭和34	齊藤諒三	50	昭和38	饗場みゆき	54	昭和42	長谷見蓉子
46	昭和34	結城澄子	50	昭和38	秋本紀子	54	昭和42	森川礼子
46	昭和34	和志武行子	50	昭和38	飯田武治	54	昭和42	竹内美千代
47	昭和35	伊勢谷篤弘	50	昭和38	木原幸弘	55	昭和43	石橋嘉夫
47	昭和35	市中滋郎	50	昭和38	輿水誠子	55	昭和43	井上みどり

回	年卒	氏名	回	年卒	氏名	回	年卒	氏名
55	昭和43	梅本美智子	60	昭和48	加藤マリ子	66	昭和54	坂本真理子
55	昭和43	太田晴美	60	昭和48	田中加代子	68	昭和56	浅川朋子
55	昭和43	鈴木 隆	60	昭和48	末木愛子	68	昭和56	笹又(清水)理央
55	昭和43	滝沢春美	60	昭和48	鈴木むつ子	69	昭和57	須藤喜子
55	昭和43	布施米子	60	昭和48	千田豊子	69	昭和57	塚本尋子
55	昭和43	牧野由紀子	60	昭和48	田谷栄子	69	昭和57	橋本文江
55	昭和43	松野 萌	60	昭和48	中西憲幸	69	昭和57	野尻幸子
55	昭和43	南 菖子	60	昭和48	中島徳子	69	昭和57	竹内 誠
55	昭和43	井上満子	60	昭和48	山下晴義	70	昭和58	浦本博志
55	昭和43	奥村啓輔	60	昭和48	丸山公代	70	昭和58	茂呂今日子
55	昭和43	山口節子	61	昭和49	梶谷早苗	70	昭和58	山口貴史
56	昭和44	加藤正子	61	昭和49	杉林堅次	71	昭和59	大川恵子
56	昭和44	酒井綾子	61	昭和49	富永節子	71	昭和59	黒田豊志
56	昭和44	深澤 宣	61	昭和49	富永英嗣	71	昭和59	近藤高史
56	昭和44	山本 恵	62	昭和50	西山信右	71	昭和59	小澤佐余子
56	昭和44	横山司甫	62	昭和50	萩野洋子	71	昭和59	松井哲夫
56	昭和44	加藤正子	62	昭和50	加藤輝隆	72	昭和60	安達俊幸
57	昭和45	天笠之珠子	62	昭和50	八谷京子	72	昭和60	嵯峨 学
57	昭和45	伊藤要一	63	昭和51	泉 眞美	72	昭和60	信濃豊進
57	昭和45	北野栄一	63	昭和51	高橋裕子	72	昭和60	根岸邦枝
57	昭和45	佐々木由紀子	63	昭和51	萩野幸司	72	昭和60	上田(奥田)伊津子
57	昭和45	柴田千枝子	63	昭和51	堀尾真理子	74	昭和62	高土居雅法
57	昭和45	関真知子	64	昭和52	坂口一夫	74	昭和62	林 知世
57	昭和45	中島和彦	64	昭和52	鈴木利之	75	昭和63	鈴木宏和
57	昭和45	服部 仁	64	昭和52	真船英一	75	昭和63	池田 靖
57	昭和45	藤村元成	65	昭和53	井上祐司	76	平成元	朝倉 渡
57	昭和45	松林久一	65	昭和53	大内恵子	76	平成元	畠山伸二
57	昭和45	奥村淳子	65	昭和53	大岸洋子	76	平成元	小林史明
57	昭和45	古屋典子	65	昭和53	山田健久	77	平成2	河南三郎
57	昭和45	米澤伸子	66	昭和54	大西弘章	77	平成2	紺谷 徹
58	昭和46	石井誠司	66	昭和54	鹿田史紀	77	平成2	増本純也
58	昭和46	上田宗央	66	昭和54	加藤浩嗣	77	平成2	的場義典
58	昭和46	加藤健二	66	昭和54	金子美代子	77	平成2	山本善一
58	昭和46	千田耕平	66	昭和54	川崎英之	77	平成2	齋藤みのり
58	昭和46	穂苺 茂	66	昭和54	金原祐吉	77	平成2	織部幸子
58	昭和46	村田悦郎	66	昭和54	草柳淳子	79	平成4	友尾 孝
58	昭和46	吉富恭助	66	昭和54	原 信行	80	平成5	井上幸江
59	昭和47	駒田由美子	66	昭和54	真船恭子	82	平成7	井上博文
59	昭和47	松本茂外志	66	昭和54	道見茂樹	82	平成7	海野春香
59	昭和47	三輪 保	66	昭和54	道見優子	83	平成8	東 美恵
59	昭和47	村上香代子	66	昭和54	吉田史子	83	平成8	坂本晋也
60	昭和48	大西美知子	66	昭和54	坂本敏郎	84	平成9	正力美香

回	年卒	氏名
84	平成9	遠藤(松村)久美子
84	平成9	木村 徹
84	平成9	石崎雅之
85	平成10	堀口(高瀬)明子
86	平成11	鵜飼政志
86	平成11	鈴木智之
86	平成11	戸前昌樹
87	平成12	穴澤和美

回	年卒	氏名
89	平成14	設樂邦夫
90	平成15	山木(上野)陽子
98	平成23	小林聡子
99	平成24	今井亮太
101	平成26	佐藤(清水)芳美
105	平成30	若林ののか
106	平成31	竹下佳輝
		旧職員及び大学院修了生 渡辺和夫

回	年卒	氏名
		旧職員及び大学院修了生 中込和哉
		旧職員及び大学院修了生 根本信雄
		旧職員及び大学院修了生 大橋養賢
		旧職員及び大学院修了生 竹口紀晃
		旧職員及び大学院修了生 山路誠一
		旧職員及び大学院修了生 辻 泰弘

## — 首都圏支部年会費振込みのお願い —

新支部長挨拶や総会報告にありますように、今年度の総会において支部年会費を2,000円に上げることにについて提案し、賛同いただきました。これまで、年会費1,000円以上への変更、利便性を上げるためのコンビニ振込の採用などの策を採ってきましたが、資産減少への対策としては十分な効果を上げることができず、年会費値上げに至りました。ご負担が増すことについて誠に申し訳なく思っておりますが、当会には他に収入源はなく、皆様一人一人の会費により会を運営しなければならないことを是非ご理解賜りたく、首都圏支部年会費の振込みをお願いいたします。

なお、コンビニ用の振込用紙には振込手数料を含めた金額が印刷してあり、首都圏支部には丁度2,000円が入金されることとなります。また、会費納入を銀行振込でも行っていただけるよう、口座情報を下記に記載しましたので、振込用紙による振込みよりもインターネットバンキング経由に慣れている方、年会費の他に寄付いただける方には、ぜひご利用いただければと思います。

会費を振り込んでいただいた方は、会報「首都圏遠久朶」にお名前を掲載いたします。よろしく願い申し上げます。

北陸銀行新宿支店

口座名：富山薬窓会首都圏支部

口座番号：2552140

## ✉ メーリングリストへの登録のお願い ✉

新型コロナウイルス感染拡大状況によっては、今後の首都圏支部総会もWeb形式での開催となることが想定されます。また、新たなイベント企画として、Zoomのブレイクアウトルームを用いた少人数グループでの集まりの機会を設定できればと考えております。

その際には、皆様のメールアドレスに招待メールをお送りし、そこに記載された情報をクリックいただくことで、パソコンやスマートフォンなどから参加いただくこととなります。

そこで、この機会にぜひ、登録をお願い致します。右にあるQRコードをスキャンすると、富山薬窓会首都圏支部メーリングリスト登録画面になりますので、そこにお名前、メールアドレス、卒業年（又は回）を入力してください。また、下記アドレスからも同じように登録できます。（令和3年度首都圏支部総会の前に登録いただいた方は再度の登録不要です。登録したかどうかよくわからない方は、重複してもまったく構いませんので、登録をお願い致します。）



<https://forms.gle/NLwy1BmSPUuPMZZ98>

登録いただいたアドレスは薬窓会首都圏支部からの連絡以外に利用いたしません。個人情報の管理には十分配慮いたします。ご協力宜しくお願い致します。

## — 編集後記 —

コロナ禍二回目の夏が始まり、首都圏4都県は緊急事態宣言、周辺の県もまん延防止等重点措置対象区域に設定されてしまいました。国民が慣れてしまったためか、昨年より状況が酷いにも関わらず人出があまり減らないのが大変残念に思います。一方で東京オリンピックは当初の否定的なムードから一転、メダルラッシュで沸き立っています。普段テレビでは中々観られない種目をライブで観られるのはとても楽しく、引きこもり生活の数少ない癒しとなっています。自粛モードの毎日が長く続き、中々辛いですが、ワクチンだけでなく遂に治療薬もいくつか承認され始めており、一日も早く今までの生活に戻れることを願うばかりです。

さて、昨年開催できなかった首都圏支部総会ですが、今回の「首都圏遠久架」にてご報告のとおり今年は無事Web形式という形で開催することができました。ご出席いただきました皆様方には大変感謝申し上げます。至らない点もあったかと思いますが、今回の経験を活かして来年以降の開催につなげていきたいと思っております。来年度どのような形式になるかはまだ未定ではありますが、是非この活動を継続できるように、また必要に応じて他支部の方々に対しても参考情報を共有できるように、色々と調整していきたいと役員一同考えております。是非とも来年もご出席いただけますよう、宜しくお願い致します。

（副幹事長 ㊦、H22年卒 宅間 祐太郎）

## 事務局等連絡先

富山薬窓会首都圏支部事務局

（株）同窓会事務局：info@egaomax.com

電話：0120-10-9870

富山薬窓会首都圏支部幹事長

道 見：toyamayakugakubu@yahoo.co.jp



令和3年度首都圏支部Web総会写真（令和3年6月26日）